

随想

星が丘キャンパスの「人間力」

医療福祉学部医療貢献学科
視覚科学専攻教授 平井淑江



森本さん



福島さん



嶋崎さん



筆者

思いがけず愛知淑徳大学の教員になってもう3年目である。お陰様で住居が近く自転車通勤している。通う道には「星ヶ丘学区」のボランティアの方達がお世話してくださる花壇があつて四季おりおりの花が咲いている。どの花も他の花を羨むこ

となく、日の光を燦々と浴びて満足そうに咲いている。その花々を見るたびに、担当する学生、さらには愛知淑徳大学の全ての学生さんが、それぞれの内なる花を咲かせて、幸多き人生を送り、そのかけがいのない知性や情感で社会に貢献して貰いたいと思う。そのささやかなお手伝いができたら、と思う。

建築賞を貰ったという1号館はロンドンの国立美術館を彷彿とさせる。国立美術館にも展覧会の案内が掛かつていたが、愛知淑徳大学も行事のある晴れの日には濃紺に赤のマークの美しい垂れ幕が風にはためく。入り口からは自転車を押さなければならぬ。そこでまず守衛さんに出会う。朝の講義の始まる9時前後の時間帯、守衛さんはほぼ直立不動で、教職員、学生、一人一人に「おはようございます」と挨拶してくれる。今は警務員さんということばを

使うことが多いが、職名の示すごとく、朝な夕な守衛さんに見守られて4年間過ごす学生達は幸せである。

今年の新学期、守衛さんのデスクに美しい生花がおかれていた。思わず「綺麗ですね。どうしたのですか」と聞くと「新学期なのでお祝いの気持ちを込めて森本さん（番先輩の人）が自分で買って来て飾っているのです」と言われた。ちなみに守衛さんは3人いてそれぞれ個性豊かであるが先輩を尊敬していてチームワークが良い。遠くの他人とは上手くいっても身近な人間関係は難しいもののなには学ばなければならぬと思う。

雨の日は主人の車に便乗すると7時40分頃に大学に着く（ここでは又、親切な中高の守衛さんのお世話になる）。先日2階の医療貢献の共同研究室で仕事をしていたらグリーンの制服を着た清掃係の方達

がせつせと仕事をされていた。この方達は併せて6名いてまた皆さんよく仕事をされている。「お早うございます。」と声をかけたら「今日は医療貢献エリアに見学の方が見えるそうですね。綺麗にしておかない」と言われた。「あ、そうだった」と思うと同時に何故この大学は派遣の方達を含めてこのように「一生懸命に目的意識を持って仕事をしてくれるのだろう」と不思議に思った。この大学のどこかに脈々として続く、陰徳の精神があつてそこに入ると、自然に人は良き人となるのであろうか？

先日「報道ステーション」を見ていたら多くの大学が潰れて行く中、金沢工業大学が躍進しているらしい。金沢工業大学は「人間力」という力を売りにしているとのことである。愛知淑徳大学も「人間力」がある大学だ。今年開学100周年を迎える愛知淑徳学園の明日に乾杯！